

## 国内経済要録

### ◇昭和34年度下期外貨予算の決定

政府は9月29日の閣僚審議会で、昭和34年度下期外貨予算を総額2,862百万ドル（前期2,463百万ドル、前年同期2,213百万ドル、いずれも最終予算、以下同じ）と決定した。その概要は次の通り。

#### (1) 輸入貨物予算

下期の鉱工業生産を上期に比べ6.7%の増加と見込み（34年度の対前年度伸び率23.2%）、これを基礎として予算を策定、結局本予算2,128百万ドル（前期比281百万ドル増、前期当初予算比387百万ドル増）予備費200百万ドル（前期比106百万ドル増、前期当初予算と同じ）計2,328百万ドル（前期比387百万ドル増）。主要物資別にみると米および重油は国内産米の豊作ならびに石炭不況対策の見地から削減されたが、繊維原料などその他諸物資については概してゆとりのある予算が計上されたことなどが目立つ。

### 34年度下期外貨予算

（単位・百万ドル）

区 分	34年度下期	34年度上期	
		当初予算	最終予算
輸入貨物予算			
本予算	2,128	1,741	1,847
うちFA	1,458	1,161	1,217
AA	670	580	630
予備費	200	200	94
計	2,328	1,941	1,941
貿易外支払予算			
本予算	485	408	475
予備費	50	50	47
計	535	458	522

#### (2) 貿易外予算

今後の輸入増加に伴う運輸関係予算の増額に加え、自由化の線に沿う海外渡航費の増加などにより総額535百万ドル（うち本予算485百万ドル）と決定。前期に比べ13百万ドルの増加（上期におけるIMF、世銀出資分を除くと、実質的な増加は77百万ドル）となった。

(3) 貿易の自由化については原材料物資中雑小約150品目（コットンリンターパルプ、セメント、塩化ビニールなど）を下期期初からAA制に移すこととなったほか、今後次の方針で逐次自由化を図ることとなった。

イ、ドル地域に対して差別待遇となっている鉄くず、大豆など原材料10品目のうちラワン材、銅合金くずは35年1月より、その他の品目については本年度中に準備を完了し、35年度中にはそれぞれグローバルAA制に移すこと。

ロ、その他原材料についても国産との競合などを調整しつつAA制移行を具体的に検討し逐次移すこと。

ハ、完成品輸入についても下期中においても検討の上逐次輸入制限を緩和すること。

### ◇外国為替引当貸付の利子歩合変更

海外金利の変動に伴い、本行はアメリカ合衆国通貨およびドイツ連邦共和国通貨表示の手形を引当とする外国為替引当貸付の利子歩合をそれぞれ次の通り変更した。

（実施日）                      （改訂前）                      （改訂後）

#### ○アメリカ合衆国通貨表示手形引当貸付

9月 5日      日歩 9厘      日歩 1銭  
 " 19日      " 1銭      " 1銭1厘

#### ○ドイツ連邦共和国通貨表示手形引当貸付

9月 12日      " 8厘      " 9厘